

アメリカの大学図書館における学生アシスタントについて

Student Assistants in American College and University Libraries

学籍番号：201221614

氏名：羅 秋芬

Qiufen LUO

アメリカの大学図書館における学生アシスタントは、質量ともに不可欠な人的資源となっている。本研究の目的は、アメリカの大学図書館における学生アシスタントの実態を量的に明らかにすることにある。

本研究では、アメリカの大学図書館における学生アシスタントの実態を把握するために、質問紙調査を行った。質問紙調査の対象は、ALD (American Library Directory) に掲載されているアメリカの大学図書館 2890 館から 20%無作為抽出した 571 館である。回収率は、24.3% (139 館) であった。質問項目は、①学生アシスタントの雇用状況、②学生アシスタントの基幹業務およびトレーニング方法と効果、③学生アシスタントに関する意識と考えの三つの部分から構成される。また、アメリカの大学図書館における学生アシスタントの実態を補完的に把握するために、アメリカ四大学五図書館のスタッフおよび学生アシスタントに対してインタビュー調査を行った。また、学生アシスタントの歴史的な量的・質的变化について明らかにすることを目的として、文献調査を行った。

質問紙調査の結果、9 割以上の大学図書館において学生アシスタントが雇用されていることが明らかになった。また、大学図書館スタッフに占める学生アシスタントの割合は、3 割弱であった。学生アシスタント雇用の財源としては、9 割近くが FWS (Federal Work-Study) であることが明らかになった。

学生アシスタントの基幹業務については、定型的で非専門的な業務が多く、専門的な業務は比較的少ないといえる。しかし、例外的な業務もあった。例えば、レファレンス・サービスを学生アシスタントの業務として位置づけている大学図書館は約 4 割あった。トレーニング方法については、「個人指導」、「オリエンテーション」、「ピア・トレーニング」が主に採用されていることが明らかになった。

さらに、学生アシスタントに関して、メリット、デメリット、採用戦略、雇用計画に関する大学図書館側の意識と、学生アシスタント自身の業務に対する考えを明らかにした。

図書館サービスや利用者のニーズが多様化する中で、大学図書館における学生アシスタントの役割はますます大きくなると考えられる。本研究では、アメリカの大学図書館における学生アシスタントの実態を量的に把握するにとどまったが、学生アシスタントを効果的に活用するために、今後も継続して学生アシスタントの研究が行われることが望まれる。

研究指導教員：呑海 沙織

副研究指導教員：溝上 智恵子